

子供の誤飲に対する関係者への啓発

1. 誤飲に対する母子健康手帳による保護者への啓発

母子健康手帳

母子保健法（昭和四十年法律第 1 4 1 号）により、市町村は、妊娠の届出をした者に対して、母子健康手帳を交付しなければならないこととされており、同法施行規則（昭和 4 0 年厚生省令第 5 5 号）及び通知により様式が定められている。

(通知様式抜粋)

事故の予防

現在わが国では、幼児から小学生にかけて、子どもの死亡原因の第1位は不慮の事故になっています。事故の内容は年齢によって特徴がありますが、親の注意や子どもに対する安全のしつけによって防げるものが大部分です。発育過程の中で、いつ頃、どんな事故が起こりやすいか知っておくことは、事故の予防の上で大切です。

月齢・年齢別で見る起こりやすい事故

月・年齢	起きやすい事故	事故の主な原因
新生児	周囲の不注意によるもの	☆誤って上から物を落とす ☆上の子が抱き上げてけがさせたり、物を食べさせる
1～6月	転落 やけど 誤飲・中毒 窒息	☆ベットなどから落ちる ☆ストーブにさわる ☆誤飲で多いもの、たばこ、医薬品、化粧品、洗剤等 ☆コイン、豆などの誤飲
7～12月	転落・転倒 やけど 溺水 誤飲・中毒 車中のけが	☆扉、階段、ベット ☆アイロン、魔法瓶やポットのお湯 ☆浴槽、洗濯機に落ちる(残し湯をしない) ☆引出しの中の薬、化粧品、コイン、豆など ☆座席から転落。(チャイルドシートで防止)
1～4歳	誤飲(中毒) 転落・転倒 やけど 溺水 交通事故	☆原因の範囲が広がる。あらゆるものが原因になる ☆階段、ベランダ(踏台になるものを置かない) ☆熱い鍋に触れる、テーブルクロスを引いて湯をこぼす ☆浴槽に落ちる、水あそび ☆飛び出し事故(手をつないで歩く)

※ 下記において、化学物質(たばこ、家庭用品など)、医薬品、動植物の毒などによって起こる急性の中毒について情報提供・相談が実施されています(異物誤飲(小石、ビー玉など)や食中毒、慢性の中毒や常用量での医薬品の副作用は受け付けていません)。

(財)日本中毒情報センター

・大阪中毒110番 TEL0990-50-2499

(有料(ダイヤルQ2)24時間365日対応)

・つくば中毒110番 TEL0990-52-9899

(有料(ダイヤルQ2)9時～17時365日対応)

・たばこ専用回線 TEL06-6875-5199

(無料(テープによる情報提供)24時間365日対応)

2. 「母子保健事業のための事故防止指導マニュアル」について

家庭内における子供の事故防止については、「健やか親子21」（平成12年）、少子化社会対策基本法に基づく「少子化社会対策大綱」（平成16年6月4日閣議決定）に取り上げられている。

それらへの対応の一つとして、「母子保健事業のための事故防止指導マニュアル」（平成16年度厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業 子供の事故防止のための市町村活動マニュアルの開発に関する研究（主任研究者 田中哲朗国立保健医療科学院生涯保健部長））が作成され、保護者に対する事故防止の指導マニュアル、指導教材等として活用されている。

〔指導教材の内容〕

- ・ 事故防止の必要性
 - ・ 子どもの発達と事故例
 - ・ 安全チェックリスト
 - ・ 事故防止のポイント
 - ・ 応急手当
- 等

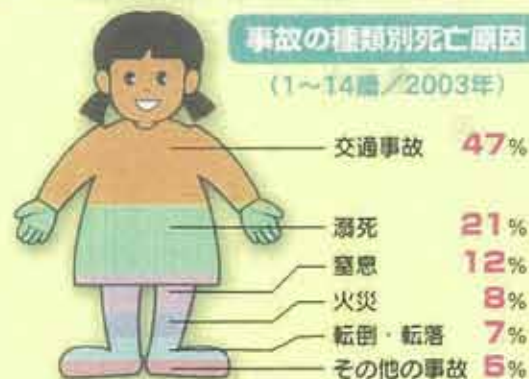
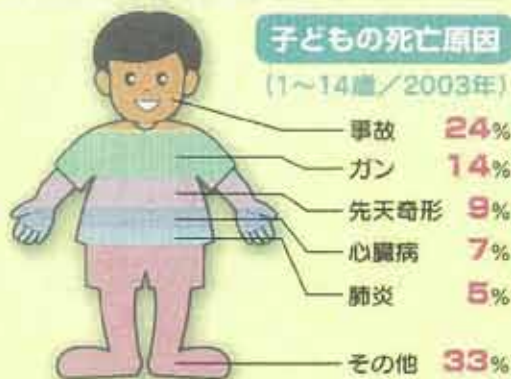


1年間に0歳では4人に1人、1~4歳では3人に1人がお医者さんを受診するような事故にあい、痛い思いをしています。



1人の死亡事故があるとその背景には65人の子どもの入院があり、5850人が病院を受診するような事故にあっています。

事故により命を失ってしまう子どもは、病気のガンよりも多いのです。



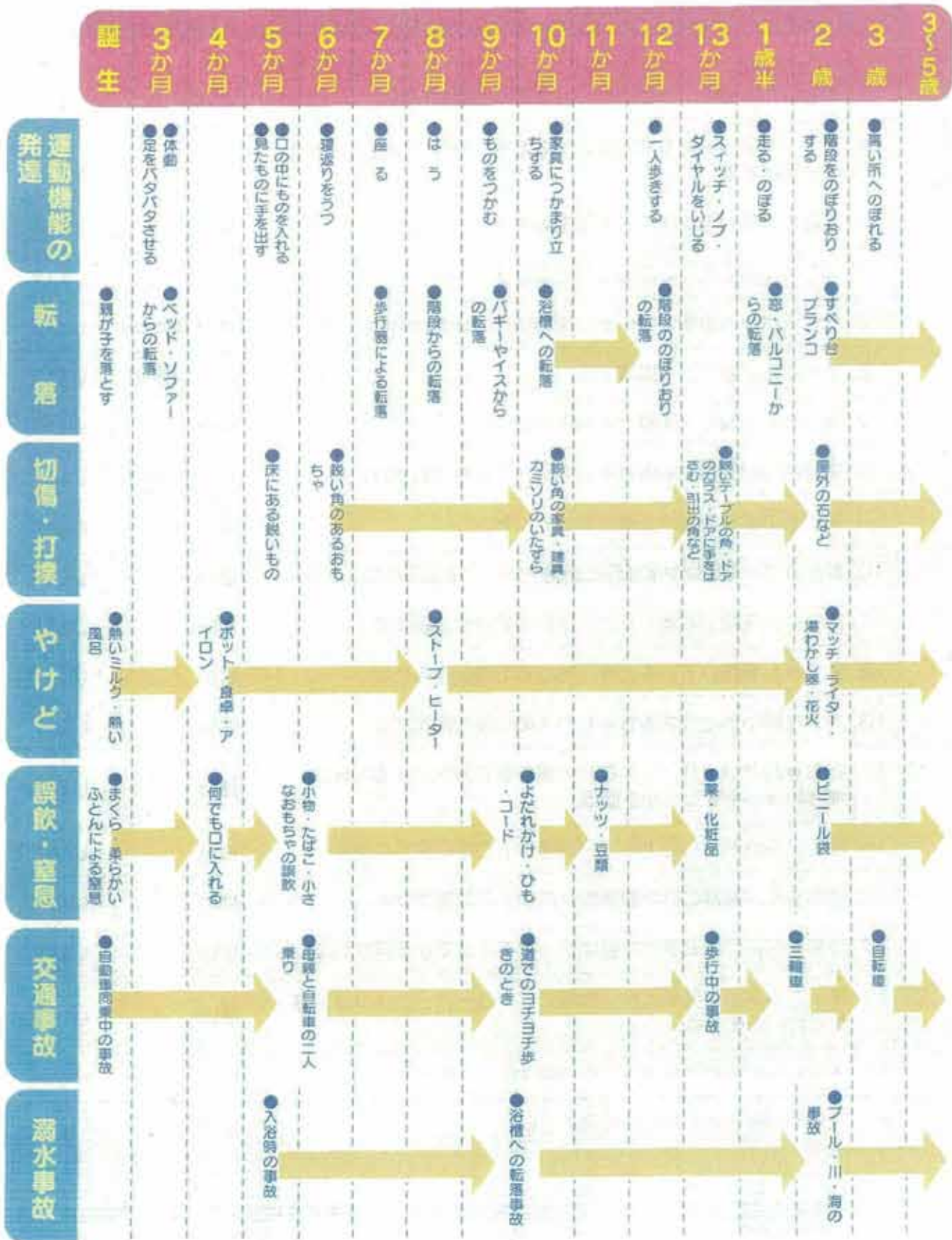
事故の経験をしてしまった保護者の80%以上が、「少しの気配りをするだけで、事故を防ぐことができた」とアンケートで回答されています。



子どもの事故は、発達と事故の関係を知り、大人が少しの気配りをするだけで、未然に防げます。

事故を防ぐための話を聞いたり、リーフレットやパンフレットを読んで、子ども達に安全をプレゼントしてあげましょう。

子どもの発達と事故例





母親・両親学級用安全チェックリスト

(4か月児まで対応)

あなたは子どもの事故を防ぐために、次のことを行っていますか。または今後行いますか。

1. 赤ちゃんの事故は大人の気配りで大部分は防げる。	はい	いいえ
2. ベビー用品やおもちゃを購入するとき、デザイン性より安全性を重視する。	はい	いいえ
3. 部屋の中は安全を考えて整理整頓する。	はい	いいえ
4. 赤ちゃんの敷布団は硬めの物を準備する。	はい	いいえ
5. ベビーベッドの柵とマットレスの間にすき間はない。	はい (使用せず)	いいえ
6. チャイルドシートを準備する。	はい (車使用せず)	いいえ
7. 赤ちゃんを家に一人置いて外出しない。	はい	いいえ
8. 車の中に短時間でも赤ちゃんを一人で乗せておかない。	はい (車使用せず)	いいえ
9. 子どもの応急手当の方法を知っている。	はい	いいえ
10. かかりつけの病院や緊急時の連絡先がわかるようにしてある。	はい	いいえ
11. 赤ちゃんを抱いて歩くとき、自分の足元に注意する。	はい	いいえ
12. 赤ちゃんを抱いているとき、あわてて階段を降りない。	はい	いいえ
13. ドアを閉めるときは赤ちゃんの手の位置を確認する。	はい	いいえ
14. 赤ちゃんをクーハン (かご) に寝かせて持ち上げるときは、両方の取っ手をしっかり握る。	はい	いいえ
15. 寝ている赤ちゃんの上に、物が落ちてこないようにする。	はい	いいえ
16. 赤ちゃんは暖房の熱が直接触れないように寝かせる。	はい	いいえ
17. 母乳やミルクを飲ませた後はゲップをさせてから寝かせる。	はい	いいえ
18. テーブルなど家具のとがった角には、コーナークッションなどでガードをする。	はい	いいえ
19. 赤ちゃんのまわりにタバコや小物は置いておかない。	はい	いいえ
20. 入浴中の赤ちゃんから目を離さない。	はい	いいえ

いいえに○印がついたら、リーフレットを読んで子どもの事故を防ぐように心がけましょう。



母親・両親 学級用

子どもの事故はちょっとした気配りで防げます。
事故を防ぐためのポイントをまとめてみました。

1. 赤ちゃんの事故は大人の気配りで大部分は防げます。

赤ちゃんは寝返りができるようになるとベビーベッドや高い所からの転落。物がつかめようになるとタバコや小物の誤飲。ハイハイやつかまり立ちをするようになると転落や熱い物を触つてのやけど。外遊びや外出をするようになると交通事故が起こりやすくなります。



事故を経験した保護者の80%以上が少しの気配りで防げることができたと回答しています。子どもの発達や行動パターンを理解し的確に対応すればほとんどの事故は防止可能です。

2. ベビー用品やおもちゃを購入する時、デザイン性より安全性を重視しましょう。

赤ちゃんが使うものはすべて安全の規格や基準にあっているとは限りません。Sマーク・SGマーク・STマークなど安全マークがついているものでも、使い方や使用月齢が違っていたり、赤ちゃんの体に合っていないと事故は起きます。使い方の表示や注意書きは大切に、説明書を良く読み、構造や品質に問題はないかを確認して使用しましょう。



ベビーベッド、子ども用の椅子、ベビーサークル、衣類などはデザインだけではなく、安全性や耐久性にも目を配りましょう。

3. 部屋の中は安全を考えて整理整頓しましょう。

タバコ・ボタン電池・クリップ・硬貨・指輪などの小物を床やテーブルに置いたままにすると、赤ちゃんは手を口に持って行きなんでも口の中に入れてようとするので危険です。赤ちゃんの口の大きさは最大32mmなので、これより小さなものは飲み込んでしまいます。



部屋の中の小物は整理整頓しておき、自宅だけではなく、実家やよその家に外出した時も注意しましょう。

4. 赤ちゃんの敷布団は硬めの物を準備しましょう。

敷布団は柔らかすぎると赤ちゃんの顔が埋まってしまい、鼻や口がふさがれてしまいます。また、ベッドの中や寝ている赤ちゃんの側にぬいぐるみやタオルなどが置いてあると寝返りをしたときに顔が埋まってしまいます。



敷布団は硬めの物を使用し、赤ちゃんはあおむけに寝かせ、うつぶせ寝にならないように気をつけましょう。布団は顔に深くかけすぎないようにしましょう。

5. ベビーベッドの柵とマットレスの間にすき間がないようにしましょう。

ベビーベッドの柵と敷布団の間に、赤ちゃんの頭が入るようなすき間があると、顔がはさまって動けなくなり、窒息する危険があります。ベビーベッドはベッドの柵と敷布団の間にすき間がないようにして使用しましょう。



すき間ができてしまう場合には使用をやめるか、タオルなどをはさみすき間をなくして使用しましょう。

6. チャイルドシートを準備しましょう。

生まれたばかりの赤ちゃんでも、抱きかかえて自動車に乗せるのは危険です。抱いていても車が衝突したり、急に止まると、乳幼児は腕から飛び出し衝撃をまともに受けてしまいます。たとえゆっくり走っていても衝撃のエネルギーは予想以上に大きく、大人の手の力では支えきれません。



車に乗せる時は年齢にあったチャイルドシートを後部座席に取り付け使用しましょう。購入時には耐久性や安全基準に合格したJISマークや運輸省の認定マークを目安に車種にあったものを選びましょう。

7. 赤ちゃんを家に一人置いて外出しない。

赤ちゃんが寝ている少しの間に、赤ちゃんだけを家に置いて買い物などに出かける人がみられます。出かける時は寝ている途中で起きてしまったり、寝返りやハイハイができるようになれば、家の中を動き回るのでいろいろな危険が待ち受けています。



また、火災や地震など災害の際にも一人では脱出できません。赤ちゃんは自分自身で身の安全を守ることができないので、大人が常に心がける必要があります。赤ちゃんを家に一人残して外出はしない。

8. 車の中に短時間でも赤ちゃんを一人で乗せておかない。

夏に赤ちゃんを自動車の中に寝かしたままにしていると、脱水を起こし、時には死亡事故につながる可能性があります。車内は日中短時間でも温度が驚くほど上昇し、40~50度になります。車から降りる時は必ず赤ちゃんも一緒に降ろしましょう。



9. 子どもの応急手当の方法を知っておきましょう。

子どもが事故にあった時必要なのは冷静な判断と適切なすばい応急手当です。的確な応急手当がなされたことで一命を取りとめたり、軽症ですんだりします。いざという時あわててパニックになってしまわないよう基礎的な知識と簡単な応急手当を覚えておきましょう。



10. かかりつけの病院や緊急時の連絡先がわかるようにしておきましょう。

事故が起こってしまった時あわてないためにも、かかりつけの医師や病院、緊急時の連絡先などはいつでもわかるようにメモをしておきます。また、母子健康手帳・保険証・診察券などはひとまとめにしていつでも持ち出せるようにしておきましょう。



11. 赤ちゃんを抱いて歩くとき、自分の足元に注意が必要です。

今まで簡単に通っていた所でも、赤ちゃんを抱いているときは足元が見えにくいので、ちょっとした段差や、カーペットがめくっていたり、床が滑りやすかったりするとつまずいて転倒する恐れがあります。赤ちゃんを抱いたまま転倒すると、体で押しつぶしてしまったり、テーブルや家具にぶつけてしまうので、赤ちゃんを抱いているときは注意して行動しましょう。



12. 赤ちゃんを抱いているとき、あわてで階段を降りない。

赤ちゃんを抱いているときは足元が見えにくいので、階段を下りるとき踏み外してしまったり、靴下やスリッパを履いていて滑って赤ちゃんを落としてしまう事故があります。階段などの高い場所からの転落は、重症な事故になりやすいので注意が必要です。階段のカーペットは毛足の短いものを使用し、市販のすべり止めを貼るもの手軽な安全対策です。ただし、極端に出っ張ると逆につまづく原因になります。



赤ちゃんを抱いているときは階段の上がり下りは慎重に行いましょう。

13. ドアを開めるときは赤ちゃんの手の位置を確認する。

赤ちゃんの小さな指はちょっとしたすき間にも簡単に入ってしまいます。ドアのすき間に指が入っているの知らずに勢よく開けてしまったり、開けておいたドアが風で急に閉まって指が挟まれてしまう事故があります。

ドアを開閉するときは、赤ちゃんの手の位置を確認し、ドアを開けておくときは、ドアストッパーなどで固定しておきましょう。



14. 赤ちゃんをクーハン(かご)に寝かせて持ち上げるときは、両方の取っ手をしっかり握る。

クーハンの扱いに慣れてくると、取っ手を片方しか握っていないのに気づかず持ち上げて赤ちゃんを落としてしまったり、持ち運んでいるとき取っ手が取れて寝ている赤ちゃんが転落してしまう事故が起こっています。

赤ちゃんをクーハンに寝かせて持ち上げるときは、必ず両方の取っ手を握っているかを確認しましょう。



15. 寝ている赤ちゃんの上に、物が落ちてこないようにしてある。

寝ている赤ちゃんの上に、テーブルの上の哺乳瓶が倒れてきたり、タンスの上の箱が落ちてきたり、お兄ちゃんお姉ちゃんが遊んでいるおもちゃが落ちてきた。上から落ちてきたものがあったり、打撲ややけどを負ってしまう事故があります。

寝ている赤ちゃんの上には物が落ちてこないようにしておきましょう。



16. 赤ちゃんは暖房の熱が直接触れないように寝かせる。

冬は暖房器具によるやけどが多くなります。体温より少し高いくらいの温度でも、長時間あてたまにすると低温やけどを起こすことがあります。赤ちゃんの皮膚は大変弱く、ほんの少しの熱でも重症なやけどを負う危険があります。

赤ちゃんはストーブ・ヒーターの熱が直接あたらないようにして寝かせましょう。こたつや電気カーペットには長時間寝かさないようにしましょう。



17. 母乳やミルクを飲ませた後はゲップをさせてから寝かせましょう。

母乳やミルクを飲んだ後は、排気が十分でない乳をもどしてしまい、吐いたものが気管に入ると窒息してしまいます。母乳やミルクを飲ませた後はゲップをさせてから寝かせ、寝かせてから10~15分は気をつけて見ているようにしましょう。



18. テーブルなど家具のとがった角には、コーナークッションなどでガードをしましょう。

ベビーベッドに寝かせようとした時に、のけぞってベッドの欄にぶつかったり、ミルクをあげようとして抱きかかえた時、急に頭を後屈してテーブルにぶつかったり、赤ちゃんはじっとしていません。

角のするどい家具やテーブルはクッション等でカバーし、赤ちゃんを抱いたりおぶったりする時は、まわりにぶつかる危険なところがないか、安全を確認してからの行動を心がけましょう。



19. 赤ちゃんのまわりにタバコや小物は置いておかない。

赤ちゃんは大人が口にくわえるタバコに興味があり、手の届くところにある物がつかめるようになると誤飲事故が多くなります。タバコや灰皿は必ず手の届かない所に置きましょう。

また、液体に溶けたニコチンは吸収が早く、一口飲んだだけでも危険なので、飲み残しの缶を灰皿代わりに使用するのはやめましょう。



20. 入浴中の赤ちゃんからは目を離さない。

授乳をしたり、オムツを取り替えたり、お母さんは睡眠不足です。赤ちゃんと一緒にお風呂に入っていて、うたた寝をして赤ちゃんが湯船に沈んでしまったり、赤ちゃんをうつぶせにして洗っていたら、顔がお湯について溺れてしまうなどの事故が起こっています。

入浴中の赤ちゃんからは目を離さず、赤ちゃんを一人にして着替えと取りにいったり、電話に出たりするのはやめましょう。





3～4か月児健診用安全チェックリスト

(3か月～1歳6か月児対応)

あなたは子どもの事故を防ぐために、次のことを行っていますか。または今後行いますか。

1. ベビーベッドの柵はいつも上げておく。	はい (使用せず)	いいえ
2. ソファーの上に赤ちゃんを一人で寝かせたままにしない。	はい	いいえ
3. 階段の上下階には転落防止用の柵を取り付ける。	はい (階段なし)	いいえ
4. テーブルなど家具のとがった角には、コーナークッションなどでガードをする。	はい	いいえ
5. 子どもの椅子は安定のよいものを使用する。	はい	いいえ
6. タバコや灰皿はいつも赤ちゃんの手の届かない所に置く。	はい (喫煙しない)	いいえ
7. ボタン電池や硬貨、指輪などの小物は手の届かない所に片付けておく。	はい	いいえ
8. ビニール袋は手の届かない所に片付ける。	はい	いいえ
9. 母乳やミルクを飲ませた後はゲップをさせてから寝かせる。	はい	いいえ
10. ホットや炊飯器は赤ちゃんの手の届かない所に置く。	はい	いいえ
11. 熱いお茶、味噌汁、カップラーメンなどは赤ちゃんの手の届かないテーブルの中央に置く。	はい	いいえ
12. テーブルクロスは使用しない。	はい	いいえ
13. アイロンは使用后、赤ちゃんの手の届かない所に置いて冷ます。	はい	いいえ
14. ストープやヒーターは赤ちゃんが触れないようにガードをして使用する。	はい (ストープ使用せず)	いいえ
15. ドアのちょうつがい部分には指が入らないようにガードをする。	はい	いいえ
16. テレビ台のガラスの扉やビデオデッキのテープ挿入口は、赤ちゃんが手や指を入れないようにガードをする。	はい	いいえ
17. かみそり、包丁、はさみなどの刃物は使用したら必ず片付け、取り出せないように引き出しにはロックをしておく。	はい	いいえ
18. 入浴中の赤ちゃんを一人にしたままにせず、入浴後は浴槽のお湯をぬいておく。	はい	いいえ
19. 一人で浴室に入れないようにドアにはカギをつけておく。	はい	いいえ
20. 自動車に乗るとき、チャイルドシートを後部座席に取り付けて使用する。	はい (車使用せず)	いいえ

いいえに○印がついたら、リーフレットを読んで子どもの事故を防ぐように心がけましょう。

著作：田中哲郎



3~4か月児 健診用

子どもの事故はちょっとした気配りで防げます。
事故を防ぐためのポイントをまとめてみました。

1. ベビーベッドの柵はいつも上げておきましょう。

赤ちゃんの発達は早く、まだ動けないから大丈夫と思っていてベッドの柵を下けたままミルクを作りに行ったり、オムツを取りに行ったり、赤ちゃんから目を離したすきに転落事故は起こっています。赤ちゃんをベビーベッドに寝かせるときは必ず柵は上げておきましょう。



2. ソファの上に赤ちゃんを一人で寝かせたままにしない。

3か月くらいになると、赤ちゃんは手足をバタつかせ動き、頭の方へずりあがったりします。5か月を過ぎると早い赤ちゃんは寝返りが打てるようになるので、ソファなど高いところに赤ちゃんを寝かせるときは、目を離すことができません。赤ちゃんは動くものだとことを忘れずに、高いところに寝かせたままにしないようにしましょう。



3. 階段の上下階には転落防止用の柵を取り付けましょう。

ハイハイが始まると探索行動が活発になり、階段や段差があるところでは目が離せません。ちょっと目を離したすきに階段を上り下りすることができないよう、階段の上下両側に柵を取り付け、閉め忘れのないようにしましょう。玄関や縁側など高い段差がある場所には一人で行けないようにしておきましょう。



4. テーブルなど家具のとがった角には、コーナークッションなどでガードをしましょう。

赤ちゃんは頭が重いので、しっかりとお座りができない頃は、バランスを崩して前のめりをしたり、後ろに倒れたりして、テーブルの角や床のおもちゃに頭やおでこをぶつけてしまいます。つかまり立ちや伝い歩きの頃は転倒がつきもので、転んだ先の家具や柱の角に、顔や口をぶつけて打撲したり切傷したりします。家具はなるべく丸みのあるものを選び、角にはクッションテープなどを取り付け、ぶつかったときの衝撃を和らげる工夫をしておきましょう。



5. 子どもの椅子は安定のよいものを使用しましょう。

椅子に座っているとき、テーブルを足でつけた勢いで赤ちゃんが椅子ごと倒れたり、椅子によじ登って転落したり、ベビーカーやショッピングカートからいきなり立ち上がったって転落してしまう事故があります。

子ども用の椅子は安定のよい倒れにくいものを選びましょう。ハイチェアやベビーカーに座らせたら必ず安全ベルトをしめ、乗り降りするときは大人が行うようにしましょう。



6. タバコや灰皿はいつも赤ちゃんの手の届かない所に置きましょう。

赤ちゃんは大人が口にくわえるタバコに興味があり、手の届くところにある物がつかめるようになると誤飲事故が多くなります。タバコや灰皿は必ず手の届かない所に置きましょう。また、液体に溶けたニコチンは吸収が早く、一口飲んだだけでも危険なので、飲み残しの缶を灰皿代わりに使用するのはやめましょう。



7. ボタン電池や硬貨、指輪などの小物は手の届かない所に片付けましょう。

赤ちゃんは何気なく床やテーブルの上に置いてある小物をつまんで口に入れてしまいます。赤ちゃんの口の大きさは最大32mmなので、これより小さなものは飲み込んでしまいます。

異物を飲み込んだ場合、普通48時間以内に便と一緒に排出されますが、心配な場合はかかりつけ医に相談しましょう。ボタン電池を飲み込んでしまった場合はすぐに病院を受診しましょう。部屋の中の小物は整理整頓しておき、自宅だけではなく、実家やよその家に出出した時にも注意しましょう。



8. ビニール袋は手の届かない所に片付けましょう。

シールやラップをはがして遊んでいて、飲み込んでのどに詰まらせてしまったり、ビニール袋を頭からかぶって、鼻や口をふさいでしまうなどの事故が起こっているため、スーパーやコンビニ、クリーニングのビニールの袋には注意が必要です。

また、歩けるようになると、壁にかけてある袋やひもに首をかけて窒息してしまう事故も起こっています。ビニール袋やラップは手の届かないところに収納し、おもちゃ代わりにして遊ばせないようにしましょう。



9. 母乳やミルクを飲ませた後はゲップをさせてから寝かせましょう。

赤ちゃんは母乳やミルクを飲んだ後、排気が十分でないで乳をもどし、気管に入ると窒息してしまいます。母乳やミルクを飲ませた後はゲップをさせてから寝かせ、寝かせてから10~15分は気をつけて見ているようにしましょう。

離乳食が始まったら食べ物は硬さや大きさ、口の中に入れる量を考え食べさせましょう。



10. ポットや炊飯器は赤ちゃんの手の届かない所に置きましょう。

赤ちゃんはハイハイができるようになると、床に置いてあるポットにつかまり立ちをしてひっくり返したり、電気コードを引っ張ってお湯をこぼしたり、炊飯器の蒸気の噴出し口に手や顔を近づけてやけどをしてしまう事故が多くあります。

ポットや炊飯器、熱いなべ等は赤ちゃんの手の届かない所に置きましょう。

ポットにはロックをかけ、余分なコードは巻き取っておきましょう。



11. 熱いお茶、味噌汁、カップラーメンなどは赤ちゃんの手の届かないテーブルの中央に置きましょう。

赤ちゃんは何でもつかめるようになると、熱いものにも平気で手をのび触れてしまいます。お母さんが食事の準備中、ちょっと目を離したすきにガス台から下ろしたばかりのやかんや鍋を触ったり、お母さんが飲もうとしたコーヒーをひっくり返してやけどをしてしまう事故があります。

また、片手で赤ちゃんを抱きながら熱いものを扱うのは危険です。抱いている赤ちゃんが動いたり、動かななくても誤ってカップが手から滑って落ちたりしないとは限りません。熱い食べ物や飲み物はテーブルの中央に置き、赤ちゃんを抱きながら食べたり運んだりするのはやめましょう。



12. テーブルクロスは使用しない。

テーブルクロスをかけていると、赤ちゃんが食事中引っ張って、熱い食べ物や飲み物がこぼれてやけどをしてしまったり、つかまり立ちをするときに引っ張って、コップやお皿、ジャムのビンなどが落ちてきて打撲をしてしまいます。

子どものうちは、テーブルクロスの使用はやめましょう。



13. アイロンは使用后、赤ちゃんの手の届かない所に置いて冷ましましょう。

使い終わったばかりのアイロンの温度は90度です。使用時だけでなく、温度を冷ますときも手の届かないところに置いて冷ましましょう。



14. ストープやヒーターは赤ちゃんが触れないようにガードをして使用しましょう。

冬は暖房器具によるやけどが多くなります。ストーブの近くに寝かせておいて、寝返りをしたときに手があたったり、ヒーターの噴出し口に指をつけたり、転んでストーブにぶれてしまったりします。赤ちゃんの皮膚は大変弱く、ほんの少しの熱でも重症なやけどを負う危険があります。

熱源が直接触れないように、ガードをして使用しましょう。ストーブの上にやかんは置かないようにしましょう。

また、体温より少し高いくらいの温度でも、長時間あてたままにすると低温やけどを起こすことがあります。赤ちゃんはストーブ・ヒーターの熱が直接あたらないようにして寝かせましょう。こたつや電気カーペットには長時間寝かせないようにしましょう。



15. ドアのちょうつがい部分には指が入らないようにガードをしましょう。

ドアのちょうつがい側に指をささむと大きな圧力がかかるため、指を骨折したり、切断してしまうような大きな事故になりかねません。赤ちゃんの小さな手はちょっとしたすき間にも簡単に入ってしまうので、特に玄関などの重さのあるドアのちょうつがい部分には注意が必要です。

ドアを開閉するときは、赤ちゃんの手の位置を確認しましょう。ドアのちょうつがい側には防止グッズなどでカバーをし、ドアを



開けておくときは、風で急に閉まらないようにドアストッパーなどで固定しましょう。

16. テレビ台のガラスの扉やビデオデッキのテープ挿入口は、赤ちゃんが手や指を入れないようにガードをしましょう。

テープが出たり入ったりするビデオデッキの挿入口。赤ちゃんがおもちゃを中に入れて遊んだり、つい手を入れてみたくるところです。手を入れて抜けなくなったりしないように、カバーでおおえば手をはさむ危険が防げます。

テレビ台のガラスの扉やビデオデッキのテープ挿入口には、ガードをしておきましょう。



17. かみそり、包丁、はさみなどの刃物は使用したら必ず片付け、取り出せないように引き出しにはロックをしておく。

まな板の上に置いてあった包丁を取ろうとして足の上に落ちてしまったり、洗面台のかみそりを握ってしまったり、赤ちゃんはこれから大人が使っている物に興味を持ち、真似をして自分でも使ってみようとする。

刃物を使用したらすぐ収納場所に片付ける習慣をつけておきましょう。



18. 入浴中の赤ちゃんを一人にしたままにせず、入浴後は浴槽のお湯はぬいておきましょう。

入浴中、支えなしに座れるようになったばかりの赤ちゃんを一人にして着替えを取りに行ったり、電話に出たり、お母さんがシャンプーをしている間、浴槽につかまり立ちをさせておいたら、よじ登って溺れたり、浴槽の外にいるからといって安心できません。

浴槽のふたは入浴する前にはずし、入浴中の赤ちゃんからは目を離さないようにしましょう。入浴後は浴槽のお湯はぬいておきましょう。



19. 一人で浴室に入れないようにドアにカギなどを付けておきましょう。

じっとしていることが少なく、一人でもよちよち歩いていってしまう1歳ごろ。掃除をしようとして浴室のドアを開けておいたら、知らないうちに浴室に入り、浴槽をのぞきこんで溺れてしまう事故がおきています。

浴室のドアは開けっ放しにせず、カギをかけて自由に入出入りできないようにしておきましょう。



20. 自動車に乗るとき、チャイルドシートを後部座席に取り付けて使用しましょう。

赤ちゃんを抱いて車に乗るのは危険です。車が急に止まったり、衝突すると、腕から飛び出し、衝撃をまともに受けてしまいます。たとえゆっくり走っていても衝撃のエネルギーは予想以上に大きく、大人の手の力では支えきれません。

車に乗せる時は年齢にあったチャイルドシートを後部座席に取り付け使用しましょう。

購入時には耐久性や安全基準に合格したJISマークや運輸省の認定マークを目安に車種にあったものを選びましょう。





9~10か月児健診用安全チェックリスト

(9か月～1歳6か月児対応)

あなたは子どもの事故を防ぐために、次のことを行っていますか。または今後行いますか。

1. タバコが入っているバックは赤ちゃんの手の届かない所に置いている。	はい (喫煙しない)	いいえ
2. ボタン電池や硬貨、指輪などの小物は手の届かない所に片付けている。	はい	いいえ
3. ビーナッツやあめ玉などは赤ちゃんの手のとどかない所に置いている。	はい	いいえ
4. ビニール袋は手の届かない所に片付けている。	はい	いいえ
5. 階段や玄関など段差がある所には赤ちゃんが一人で行けないようにしてある。	はい	いいえ
6. テーブルなど家具のとがった角には、コーナークッションなどでガードをしている。	はい	いいえ
7. 赤ちゃんの椅子は安定のよいものを使用している。	はい	いいえ
8. テーブルクロスは使用していない。	はい	いいえ
9. テーブルや棚の上にある食器や重いビン、缶などは赤ちゃんが自由に触れないようにしてある。	はい	いいえ
10. ホットや炊飯器は赤ちゃんの手の届かない所に置いている。	はい	いいえ
11. 熱いお茶、味噌汁、カップラーメンなどは赤ちゃんの手の届かないテーブルの中央に置いている。	はい	いいえ
12. アイロンは使用后、赤ちゃんの手の届かない所に置いて冷ましている。	はい	いいえ
13. ストープやヒーターは赤ちゃんが触れないようにガードをして使用している。	はい (ストープ使用せず)	いいえ
14. ドアのちょうつがい部分には指が入らないようにガードをしている。	はい	いいえ
15. テレビ台のガラスの扉やビデオデッキのテープ挿入口は、赤ちゃんが手や指を入れないようにしている。	はい	いいえ
16. 包丁、はさみ、かみそりなどの刃物は使用したら必ず片付け、取り出せないように引き出しにはロックをしている。	はい	いいえ
17. バケツや洗面器に水をためて床に置いたままにしない。	はい	いいえ
18. 入浴中の赤ちゃんを一人にしたままにせず、入浴後は浴槽のお湯をぬいている。	はい	いいえ
19. 一人で浴室に入れないようにドアにはカギをつけてある。	はい	いいえ
20. 自動車に乗るとき、チャイルドシートを後部座席に取り付けて使用している。	はい (童乗せず)	いいえ

いいえに○印がついたら、リーフレットを読んで子どもの事故を防ぐように心がけましょう。

著作：田中哲郎



9~10か月児 健診用

子どもの事故はちょっとした気配りで防げます。
事故を防ぐためのポイントをまとめてみました。

1. タバコが入っているバックは赤ちゃんの手の届かない所に置きましょう。

赤ちゃんは探求心が旺盛で、大人が物を出し入れるバックが気になります。バックの中には、小銭や化粧品、薬など誤飲事故につながる物がたくさん入っています。バックの中に入れていれば大丈夫と思って、赤ちゃんの側に置いておいたため、目を離したすきにタバコをバックの中から出して食べてしまった事故が起きています。

タバコはいつも子どもの手の届かない所に置きましょう。



2. ボタン電池や硬貨、指輪などの小物は手の届かない所に片付けましょう。

赤ちゃんは何気なく床やテーブルの上に置いてある小物をつまんで口に入れてしまいます。赤ちゃんの口の大きさは最大32mmなので、これより小さなものは飲み込んでしまいます。

異物を飲み込んだ場合、普通48時間以内に便と一緒に排出されますが、心配な場合はかかりつけ医に相談しましょう。ボタン電池を飲み込んでしまった場合はすぐに病院を受診しましょう。部屋の小物は整理整頓しておき、自宅だけではなく、実家やよその家に出出した時も注意しましょう。



3. ビーナッツやあめ玉などは赤ちゃんの手の届かない所に置きましょう。

赤ちゃんの気管には物が入りやすく、この時期ビーナッツや大豆などの豆類を与えるのは危険です。豆類は赤ちゃんの気管をふさいでしまう大きさなので、気管に入っているのに気がつかないと肺炎の炎症を起こしてしまいます。

ビーナッツは3歳を過ぎるまで与えるのをやめましょう。食べ物のかたさや大きさ、口の中に入れる量を考え、ゆっくり食べさせましょう。



4. ビニール袋は手の届かない所に片付けましょう。

シールやラップをはがして遊んでいて、飲み込んでのどに詰まらせり、ビニール袋を頭からかぶって、鼻や口をふさいでしまうなどの事故が起きているので、スーパーやコンビニ、クリーニングのビニールの袋には注意が必要です。また、歩けるようになると、壁にかけてある袋やひもに首をかけて窒息してしまう事故も起きているので、ビニール袋やラップは手の届かないところに収納し、おもちゃ代わりにして遊ばせないようにしましょう。



5. 階段や玄関など段差があるところには子どもが一人でいけないようにしておきましょう。

玄関によちよち歩いていって転落したり、階段をよつんばいで上がってしまい転落します。ちょっと目を離したすきに、思わぬところに移動するようになるので、転落の危険のある場所のドアには鍵をかけたり柵をつけて、一人ではいけないようにしておきましょう。



6. テーブルなど家具のとがった角には、コーナークッションなどでガードしましょう。

つかまり立ちや伝い歩きの際は転倒がつきもので、転んだ先の家具や柱の角に、顔や口をぶつけて打撲したり切傷したりします。家具はなるべく丸みのあるものを選び、角にはクッションテープなどを取り付け、ぶつかったときの衝撃を和らげる工夫をしておきましょう。



7. 赤ちゃんの椅子は安定のよいものを使用しましょう。

椅子に座っているとき、テーブルを足でけたついで赤ちゃんが椅子ごと倒れたり、椅子によじ登って転落したり、ベビーカーやショッピングカートからいきなり立ち上がって転落してしまう事故があります。

子ども用の椅子は安定のよい倒れにくいものを選びましょう。ハイチェアやベビーカーに座らせたら必ず安全ベルトをしめ、乗り降りするときは大人が行うようにしましょう。



8. テーブルクロスは使用しない。

テーブルクロスをかけていると、赤ちゃんが食事中引っ張って、熱い食べ物や飲み物がこぼれてやけどをしてしまったり、つかまり立ちをするときに引っ張って、コップやお皿、ジャムのビンなどが落ちてきて打撲をしてしまいます。

子どものうちは、テーブルクロスの使用はやめましょう。



9. テーブルや棚の上にある食器や重いビン、缶などは赤ちゃんが自由に触れないようにしておきましょう。

テーブルの上に置いてあるコップを落としたり、割れた破片を踏んでしまったり、缶詰やジャムのビン足を踏んでしまったり、手の届く所にあるものに興味を持って触ったり、引っ張ったり、押しつぶすことにより、外傷や打撲事故がみられます。

テーブルや棚の上にある食器や重いビン、缶などは自由に触れないようにしておきましょう。



10. ポットや炊飯器は赤ちゃんの手の届かない所に置きましょう。

赤ちゃんはつかまり立ちができるようになると、床に置いてあるポットにつかまりひっくり返ったり、電気コードを引っ張ってお湯をこぼしたり、炊飯器の蒸気の噴出し口に手や顔を近づけてやけどをしてしまう事故が多くあります。

ポットや炊飯器、熱いお茶や食べ物は赤ちゃんの手の届かない所に置きましょう。

ポットにはロックをかけ、余分なコードは巻き取っておきましょう。



11. 熱いお茶、味噌汁、カップラーメンなどは赤ちゃんの手の届かないテーブルの中央に置きましょう。

赤ちゃんは熱いものにも平気で手をのびし触れてしまいます。お母さんが食事の準備中、ちょっと目を離れたすきにガス台から下ろしたばかりのやかんや鍋を触ったり、お母さんが飲もうとしたコーヒーをひっくり返してやけどをしてしまう事故があります。

熱い食べ物や飲み物はテーブルの中央に置き、赤ちゃんを抱きながら食べたり運んだりするのはやめましょう。



12. アイロンは使用後、赤ちゃんの手の届かない所に置いて冷ましませう。

使い終わったばかりのアイロンの温度は90度です。使用時だけでなく、温度を冷ますときも手の届かないところに置いて冷ましませう。



13. ストープやヒーターは赤ちゃんが触れないようにガードをして使用しましょう。

冬は暖房器具によるやけどが多くなります。ストーブの近くに寝かせておいて、寝返りをしたときに手があたったり、ヒーターの噴出し口に指を突いたり、転んでストーブにぶれてしまったりします。赤ちゃんの皮膚は大変弱く、ほんの少しの熱でも重症なやけどをうう危険があります。



熱源が直接触れないように、ガードをして使用しましょう。ストーブの上にはやかんは置かないようにしましょう。また、体温より少し高いくらい温度でも、長時間あてたままにすると低温やけどを起こすことがあります。赤ちゃんはストーブ・ヒーターの熱が直接あたらないようにして寝かせましょう。こたつや電気カーペットには長時間寝かせないようにしましょう。

14. ドアのちょうつがい部分には指が入らないようにガードをしましょう。

ドアのちょうつがい側に指をはさむと大きな圧力がかかるため、指を骨折したり、切断してしまうような大きな事故になりかねません。赤ちゃんの小さな手はちょっとしたすき間にも簡単に入ってしまうので、特に玄関などの重さのあるドアのちょうつがい部分には注意が必要です。



ドアを開閉するときは、赤ちゃんの手を確認しましょう。ドアのちょうつがい側には防止グッズなどでカバーをし、ドアを開けておくときは、風で急に閉まらないようにドアストッパーなどで固定しましょう。

15. テレビ台のガラスの扉やビデオデッキのテープ挿入口は、赤ちゃんが手や指を入れないようにガードをしましょう。

テープが出たり入ったりするビデオデッキの挿入口。赤ちゃんがおもちゃを中に入れて遊んだり、つい手を入れてみたくなる場所です。手を入れて抜けなくなったりしないように、カバーでおおえば手をはさむ危険が防げます。

テレビ台のガラスの扉やビデオデッキのテープ挿入口には、ガードをしておきましょう。



17. 包丁、はさみ、かみそり、などの刃物は使用したら必ず片付け、取り出せないように引き出しにはロックをする。

まな板の上に置いてあった包丁を取ろうとして足の上に落ちてしまったり、洗面台のかみそりを握ってしまったり、赤ちゃんはこれから大人が使っている物に興味を持ち、真似をして自分でも使ってみようとしています。

刃物を使用したらずく収納場所に片付ける習慣をつけておきましょう。



17. バケツや洗面器に水をためて床に置いたままにしないようにしましょう。

赤ちゃんは10cm程の浅い水深でも溺れてしまいます。バケツや洗面器に溜まっている浅い水に身を乗り出しのぞき込んで見ているうちに、頭がつかって溺れてしまったりするので、使い終わったら必ず水を捨てておきましょう。水遊びをしているときは一人にしないことです。



18. 入浴中の赤ちゃんを一人にしたままにせず、入浴後は浴槽のお湯はぬいておきましょう。

入浴中、支えなしに座れるようになったばかりの赤ちゃんを一人にして着替えを取りに行ったり、電話に出たり、お母さんがシャンプーをしている間、浴槽につかまり立ちをさせておいたら、よじ登って溺れたり、浴槽の外にいるからといって安心できません。

浴槽のふたは入浴する直前にはずし、入浴中の赤ちゃんからは目を離さないようにしましょう。入浴後は浴槽のお湯はぬいておきましょう。



19. 一人で浴室に入れないようにドアにカギなどを付けておきましょう。

じっとしていることが少なく、一人でもよちよち歩いていってしまう1歳ごろ。掃除をしようとして浴室のドアを開けておいたら、知らないうちに浴室に入り、浴槽をのぞきこんで溺れてしまう事故がおきています。

浴室のドアは開けっ放しにせず、カギをかけて自由に出入りできないようにしておきましょう。



20. 自動車に乗るとき、チャイルドシートを後部座席に取り付けて使用しましょう。

赤ちゃんを抱いて車に乗るのは危険です。車が急に止まったり、衝突すると、腕から飛び出し、衝撃をまともを受けてしまいます。たとえゆっくり走っていても衝撃のエネルギーは予想以上に大きく、大人の手力では支えきれません。

車に乗せる時は年齢にあったチャイルドシートを後部座席に取り付け使用しましょう。購入時には耐久性や安全基準に合格したJISマークや運輸省の認定マークを目安に車種にあったものを選びましょう。





1歳6か月児健診用安全チェックリスト

(1歳6か月～3歳児対応)

あなたは子どもの事故を防ぐために、次のことを行っていますか。または今後行いますか。

1. 子どもが遊んでいる周りに、つまずきやすいものや段差がないか注意する。	はい	いいえ
2. テーブルや椅子など高いところでは立ち上がらせない。	はい	いいえ
3. 階段を上り下りするときは、大人がいつも子どもの下側を歩くか、手をつなく。	はい (階段なし)	いいえ
4. 子どもの位置を確認してからドアを開ける。	はい	いいえ
5. 子どもに引き出しやドアを開け閉めして遊ばせない。	はい	いいえ
6. ペンやフォーク、歯ブラシなどをくわえて走り回らせない。	はい	いいえ
7. 子どもの腕を強く引っ張ることはない。	はい	いいえ
8. ストープやヒーターは子どもが触れないようにガードをして使用する。	はい (ストープ 使用せず)	いいえ
9. 熱いお茶、味噌汁、カップラーメンなど子どもが熱い物に触れないようにしている。	はい	いいえ
10. 医薬品、化粧品、洗剤などは子どもの手の届かないところに置く。	はい	いいえ
11. 子どもに鼻や耳に小物を入れて遊ばせない。	はい	いいえ
12. ビーナッツや飴玉などは子どもの手の届かないところに置く。	はい	いいえ
13. 自動車に乗るとき、チャイルドシートを後部座席に取り付けて使用する。	はい (車使用せず)	いいえ
14. ドアを開閉するとき、子どもの手や足の位置を確認している。	はい	いいえ
15. 入浴後、浴槽のお湯はぬいておく。	はい	いいえ
16. 子どもが一人で浴室に入れないようにドアにはカギをかけておく。	はい	いいえ

いいえに○印がついたら、リーフレットを読んで子どもの事故を防ぐように心がけましょう。



1歳6か月児 健診用

子どもの事故はちょっとした気配りで防げます。
事故を防ぐためのポイントをまとめてみました。

1. 子どもが遊んでいる周りに、つまずきやすいものや段差がないか注意をしましょう。

床に出してあるおもちゃや掃除機のコード、めくれあがったカーペットにつまずいたり、公園で石段につまずいて転んだり。子どもは足元を見ないで突進してくるので、ちょっとした段差にもつまずき転倒します。

ある程度高さのある段差は認識できますが、ちょっとした段差は逆につまずきやすいので注意が必要です。

おもちゃは床に出しすぎないようにし、部屋の中は整理整頓しておきましょう。

つまずきそうな段差がないか確認して遊ばせましょう。



2. テーブルや椅子など高いところでは立ち上がらないようにさせましょう。

高いところに立ち上がるの喜び、テーブルやこたつの上で落ちてしまったり、椅子や買い物カート、ベビーカーから立ち上がって転落する事故が起っています。

テーブルや椅子などには立ち上がらないようにさせましょう。

ハイチェアやベビーカーに座らせたら必ず安全ベルトをしめ、乗り降りするときは大人が行うようにしましょう。



3. 階段を上り下りするときは、大人がいつも子どもの下側を歩くか、手をつなぎましょう。

階段を上り下りするときは、転んでも支えられるように子どもの下側を歩きます。最初後ろ向きにハイハイをして降りるようにし、歩いて降りられるようになったら手を取ったり子どもの横か下側を歩きましょう。

また、大人の目が離れることがあっても安全なように階段の上下階には柵をつけ、閉め忘れのないようにしましょう。



4. 子どもの位置を確認してからドアは開けましょう。

開き戸を勢いよく開けたら反対側にいる子どもにぶつかったり、ドアが透明なガラスだと閉まっているのがわからなくて突進してぶつかってしまうことがあります。シールを貼ったりぶつかっても飛び散らないようなフィルムを貼って防止します。

子どもの位置を確認してから、ドアは開閉しましょう。



5. 子どもが引き出しやドアを開け閉めして遊ぶことがないようにしましょう。

家具の引き出しを開け閉めして指をはさんだり、引き出しを出してよじ登りタンスが倒れてはさまれたりします。機密性の高いサッシにはさむと、ひどい場合は指を骨折したり、切断してしまいます。

ドアクッションや引き戸ロック、サッシの溝には消しゴムやラップの芯などをはさんで防止しましょう。

サッシの鍵の部分は子どもの背丈からいってもいたずらしたくなる所なので、知らないうちにベランダに一人で出られないように、簡単に開けられないようにロックをしておきましょう。



6. ペンやフォーク、歯ブラシなどをくわえて走り回らない。

口に物を入れたまま歩いたり、走り回っていると、壁にぶつかったり転んだときに口の中を切ってしまうたり、喉をついたりする危険があります。手に持っていれば転んだとき突き刺さってしまいます。

ペンやフォーク、歯ブラシなどをくわえて走り回らないようにしましょう。



7. 子どもの腕を強く引っ張らない。

オムツを交換した後、子どもを起こそうとして腕を勢いよく引っ張り、転びそうになって片腕を急に引き上げたり、お兄ちゃんお姉ちゃんが遊んでいて引っ張ったりしたときに脱臼は起こっています。

脱臼は癖になりやすいので、急に腕を引いたりしないようにしましょう。



8. ストープやヒーターは子どもが触れないようにガードをして使用しましょう。

冬は暖房器具によるやけどが多くなります。ヒーターの噴出し口に指をついたり、転んでストープにぶれてしまったりします。子どもの皮膚は大変弱く、ほんの少しの熱でも重症なやけどを負う危険があります。

熱源が直接触れないように、ガードをして使用しましょう。ストープの上にやかんは置かないようにしましょう。



9. 熱いお茶、味噌汁、カップラーメンなど子どもが熱い物に触れないようにしましょう。

台所は子どもにとって危険な場所のひとつです。ちょっと目を離したすきにガス台から下ろしたばかりのやかんや熱い鍋に触ってしまったら、足元にいる子どもに熱いスープや油をかけてひどいやけどを負わせてしまったり、テーブルの上のカップラーメンをひっくり返してしまう事故があります。

熱い食べ物や飲み物はテーブルの中央に置きましょう。

大人の目が離れることがあっても自由に台所には入れないように、柵をつけ、閉め忘れのないようにしておきましょう。

また、アイロンは使用時だけでなく、温度を冷ますときも手の届かないところに置いて冷ましましょう。



10. 医薬品、化粧品、洗剤などは子どもの手の届かないところに置きましょう。

子どもは大人のまねをしたがり、大人が物を出し入れするバックが気になります。バックの中には小銭や化粧品、薬など誤飲事故につながる物がたくさん入っていますが、バックの中に入っていれば大丈夫と思っただけで、子どもの側に置いておいたため、バックの中からタバコを出して食べてしまったり、引き出しに入っている薬も取り出して誤飲してしまいます。

お母さんが使う化粧品はことのほか興味・関心があり、洗面台や化粧台の上に無造作において置かないようにしましょう。

医薬品、化粧品、洗剤などは子どもの手の届かないところに置きましょう。

手が届く引き出しや冷蔵庫は開けることができないようにロックをしておきましょう。



11. 子どもが鼻や目に小物を入れて遊ぶことがないようにしましょう。

子どもはビーズやプラスチックの玉、小さなブロックやお菓子などを面白半分で鼻や耳に詰めて遊ぶことがあります。異物が詰まって取れなくなり、思わぬ事故になることもあるので注意が必要です。特に鼻から入ったものは長時間そのままにしておくとなぜか鼻の中の粘膜に炎症を引き起こします。

鼻や耳に小物を入れて遊ぶことがないように注意しましょう。



12. ビーナッツや飴玉などは子どもの手の届かないところに置きましょう。

子どもは何気なく床やテーブルの上に置いてある小物をつまんで口に入れてしまいます。子どもの口の大きさは最大32mmなので、これより小さなものは飲み込めてしまったり、おもちゃが口の中にすっぽり入ってしまったら、食べ物が飲み込めなくて喉につかえてしまったりします。

子どもの喉はまだ未発達なので、気管に物が入りやすく、ピーナッツや枝豆などの豆類を与えるのは危険です。豆類は赤ちゃんの気管をふさぐ大きさで、誤って気管に入っているのに気がつかないと肺の炎症を起こしてしまいます。

ピーナッツは3歳を過ぎるまでは与えないようにしましょう。食べ物には硬さや大きさ、口の中に入れる量を考え食べさせましょう。



13. 自動車に乗るとき、チャイルドシートを後部座席に取り付けて使用しましょう。

子どもはなかなかじっと座ってられません。チャイルドシートを嫌がって座らないと抱きかかえて乗せてしまいがちになりますが、スピードを出していても衝突による力は予想以上に大きく、子どもを死亡させたり、ひどく傷つけてしまいます。

車に乗せる時は年齢にあったチャイルドシートを後部座席に取り付け使用しましょう。

購入時には耐久性や安全基準に合格したJISマークや運輸省の認定マークを目安に車種にあったものを選びましょう。



14. ドアを開閉するとき、子どもの手や足の位置を確認しましょう。

子どもの行動範囲が広がると、自動車のドア、エレベーター、車のパワーウィンドウなど、色々な所で手や足をはさむ事故が多くなります。ドアやサッシは人が出入りする度に触れるところであるので、ドアやパワーウィンドウを開閉するときは、手などはさまないように注意しましょう。

ドアを開閉するときは、子どもの手や足がどこにあるかを確認しましょう。



15. 入浴後、浴槽のお湯は抜いておきましょう。

入浴中、子どもを一人にして着替えを取りに行ったり、電話に出たり、お母さんがシャンプーをしている間でも、浴槽をよじ登って溺れたり、浴槽の外にいるからといって安心できません。

浴槽のふたは入浴する直前にはずし、入浴中の子どもからは目を離さないようにしましょう。

2歳のお誕生日までは、入浴後は浴槽のお湯はぬいておきましょう。



16. 一人で浴室に入れないようにドアにカギなどをつけておきましょう。

掃除をしようとして浴室のドアを開けておいたら、知らないうちに浴室に入り、浴槽をのぞきこんで溺れてしまう事故がおきています。

浴室のドアは開けっ放しにせず、子どもの手の届かない所に外カギをつけて、自由に入りにくいようにしておきましょう。





3歳児健診用安全チェックリスト

(3歳児から)

あなたは子どもの事故を防ぐために、次のことを行っていますか。または今後行いますか。

1. 子どもが外遊びをするとき、つまずきやすいものや段差がないか注意する。	はい	いいえ
2. 浴室の床やタイルは滑りにくい。	はい	いいえ
3. いつも子どものいる位置を確認してる。	はい	いいえ
4. すべり台やブランコの安全な乗りかたを教えている。	はい	いいえ
5. ベランダや窓の側に踏み台になるものはない。	はい	いいえ
6. おもちゃで遊んでいるとき、危険なことをしていないか確認をしている。	はい	いいえ
7. 車のドアを開めるとき、子どもの指をはさまないか確認をしている。	はい	いいえ
8. 自動車に乗るときは必ずチャイルドシートを使用している。	はい (車使用せず)	いいえ
9. 子どもに交通ルールを教えている。	はい	いいえ
10. ストープやヒーターなどは子どもが触れないようにガードをして使用している。	はい (ストープ使用せず)	いいえ
11. 熱いお茶、味噌汁、カップラーメンなど子どもが熱い物に触れないようにしている。	はい	いいえ
12. 医薬品、化粧品、洗剤などは子どもの手の届かない所に置いている。	はい	いいえ
13. 子どもに鼻や耳に小物を入れて遊ばせない。	はい	いいえ
14. あめ、お餅などをあげるとき、喉に詰まらせないように注意している。	はい	いいえ
15. 子どもだけで川や池に遊びに行くことはない。	はい	いいえ
16. 水遊びをするときは必ず大人が付き添っている。	はい	いいえ
17. かみそり、包丁、はさみなどの刃物は使用したら必ず片付け、取り出せないように引き出しにはロックをしておく。	はい	いいえ

いいえに○印がついたら、リーフレットを読んで子どもの事故を防ぐように心がけましょう。

著作：田中啓郎



3歳児 健診用

子どもの事故はちょっとした気配りで防げます。
事故を防ぐためのポイントをまとめてみました。

1. 子どもが外遊びをするとき、つまずきやすいものや段差がないか注意しましょう。

子どもは体のわりに頭が大きく重心が高いため、バランスを崩してよく転倒します。走っていて足がもつれたり、スクーター、三輪車に乗っていて石や段差で転倒したりします。まだまだ上手に手を出すことができず、顔面からアスファルトやコンクリートに転倒すると重傷な事故になる場合があります。



つまずきそうな段差がないか確認して遊ばせましょう。
足のサイズにあった靴をはいて遊ばせましょう。

2. 浴室の床やタイルは滑りにくいですか。

浴室のタイルは水や石鹸で滑りやすく、転倒すると桶や浴槽、ドアのサンで打撲したり切傷してしまいます。

浴槽の床やタイルは滑り止めのマットをひくなどして、滑らないようにしておきましょう。



3. いつも子どものいる位置を確認しましょう。

ジャンプしたり、走ったり、三輪車をこいだり、お母さんがおしゃべりに夢中になっているわずかなすきに子どもは思いがけないところに移動します。ソファからジャンプして飛び降りてテーブルにぶつかったり、走って遊んでいてドアや柱にあたったり、危険な遊び方を始めたらきちんと指導しましょう。



外遊びをするときは、子どもは思いがけないところに移動するので、注意しましょう。子どもの行動をよく観察して、安全に遊べる環境を作りましょう。

4. すべり台やブランコの安全な乗りかたを教えましょう。

すべり台で前を滑っている友達を後ろから押ししたり、ブランコに立ち乗りをしていて転落し、戻ってきたブランコにあたったり、子どもは決まった遊び方では物足りず無理なことをしようとします。安全に作られている遊具でも遊び方を誤れば事故の引き金となり、思わぬけがを負ってしまいます。



遊具の安全な遊び方を教えましょう。
遊びのルールを決めて守らせるようにしましょう。

5. ベランダや窓の側に踏み台になるものは置かない。

ベランダや窓の向こう側の景色に子どもは興味があります。子どもの好奇心をくすぐる場所であるのと合わせて、転落したときの被害の大きさも忘れてはなりません。お母さんがベランダから下が見えると、身を乗り出し、高い階にあるベランダからの転落事故は死亡や重傷などの生命にかかわる事故につながります。



ベランダには新聞の束、ビール瓶のケース、大きなクーラーボックス、高さのある植木鉢など、踏み台になるものは置かないようにしましょう。

子どもがのぞきこめる窓には安全欄つけ、ベッドやソファ、椅子やテーブルなど子どもの這い上がれる物は窓のそばには置かないようにしましょう。

6. おもちゃで遊んでいるとき、危険なことをしていないか確認しましょう。

おもちゃを持って遊具の高いところから飛び降りたり、砂場遊びのシャベルで打ち合ったり、縄跳びや紐をすべり台やジャングルジムにかけて遊んだり、子どもは大人が思いがけないような遊びを見つけてきます。子どもの遊んでいるおもちゃや遊具環境、遊び方について大人が常に確認する必要があります。子どものおもちゃの大部分は安全に設計されていますが、子どもは本来の遊び方で遊ぶとは限らないので常におもちゃの安全を点検しておきましょう。



子どもの年齢や能力にあった遊具を選び、遊び方のルールを身につかせましょう。

7. 車のドアを開めるとき、子どもの指をはさまないか確認をしましょう。

車のドアを開めるとき、子どもの手があるのに気づかず閉めてしまうと、車のドアは重いので軟らかい子どもの指は重傷な傷を負ってしまいます。

車のドアは子どもが開けられないようにドアロックしておき、パワーウィンドーを開めるときは窓から顔や手が出ていないか確認してから行いましょう。



また、自転車に乗せていて後輪に足をはさむ事故も起こっていますので、子どもを自転車と一緒に乗せるときは、足が巻き込まれないように、ドレスガードのついたものを選びましょう。

8. 自動車に乗るときは必ずチャイルドシートを使用しましょう。

子どもはなかなかじっと座っていません。チャイルドシートに嫌がって座らないと、使用しないで車に乗せてしまいがちになりますが、スピードを出していないでも衝突による力は予想以上に大きく、子どもを死亡させたりひどく傷つけてしまいます。走行中子どもに車内の装置を触らせないようにするためにもチャイルドシートに座らせ、シートベルトをしっかりと締めましょう。



9. 子どもに交通ルールを教えていきましょう。

信号の変わり際に横断歩道を渡って車と接触したり、ボールを追って道路に飛び出しひかれてしまったり。子どもは遊びに夢中になってしまうと、周囲に注意を払うことがなかなかうまくできません。

道路を歩くときは手をつなぎ、大人は車道側を歩くようにしましょう。

三輪車は車が通らないところで乗ることや、道路に飛び出しをしないなど、交通ルールを教えていきましょう。



10. ストーブやヒーターは子どもが触れないようにする。

冬は暖房器具によるやけどが多くなります。ヒーターの噴出し口に指をつけたり、転んでストーブにぶれてしまったりします。子どもの皮膚は大変弱く、ほんの少しの熱でも重症なやけどを負う危険があります。

熱源が直接触れないように、ガードをして使用しましょう。ストーブの上にやかんは置かないようにしましょう。



11. 熱いお茶、味噌汁、カップラーメンなど子どもが熱い物に触れないようにしましょう。

台所は子どもにとって危険な場所のひとつです。ちょっと目を離したすきにガス台から下ろしたばかりのやかんや熱い鍋に当たったり、足元にいる子どもに熱いスープや油をかけてひどいやけどを負わせてしまったり、テーブルの上のカップラーメンをひっくり返してしまう事故があります。

熱い食べ物や飲み物はテーブルの中央に置きましょう。

アイロンは使用時だけでなく、温度を冷ますときも手の届かないところに置いて冷ましましょう。



12. 医薬品、化粧品、洗剤などは子どもの手の届かない所に置きましょう。

子どもは大人のまねをしたがり、引き出しに入っている薬も取り出して誤飲してしまいます。好奇心が強く、トイレ用洗剤、カビ取り剤、漂白剤などを無造作に置いておくと誤飲する危険があります。誤飲の場合、吐かせていいものと悪いものがあるので、まず何を飲み込んだのか落ち着いて判断することが必要です。

医薬品、化粧品、洗剤などは子どもの手の届かないところに置きましょう。

手が届く引き出しは開けることができないようにロックをしておきましょう。

薬は不要になったら捨て、薬入れにお菓子の空き缶などは使用しない。



13. 子どもが鼻や耳に小物を入れて遊ばせない。

子どもはビーズやプラスチックの玉、小さなブロックやお菓子などを面白半分で鼻や耳に詰めて遊ぶことがあります。異物が詰まって取れなくなり、思わぬ事故に至ることもあるので注意が必要です。特に鼻から入ったものは長時間そのままにしておくと鼻の中の粘膜に炎症を引き起こします。

鼻や耳の中に物を入れてはいけないことを教えましょう。



14. あめ、お餅などをあげるとき、喉に詰まらせないように注意する。

あめを喉に詰まらせたり、食べ物が大きすぎて飲み込めず、喉につかえることがあります。子どもの喉はまだ未発達なので、気管に物が入りやすく、落ちて着いて食べないと窒息事故は起こっています。

食べ物は硬さ大きさ、口の中に入れる量を考えて食べさせましょう。



15. 子どもだけで川や池に遊びに行かせない。

外で友達同士で遊ぶことが多くなるので、住まいの近くの池や川、用水路、浄化槽や防火槽など子どもが落ちる危険がある場所がないか確認しておきましょう。浅瀬でも流れがある所では、バランスを崩して転ぶと簡単に立ち上がれません。

川や池、用水路などに一人近づいては危険なことを教えましょう。



16. 水遊びをするときは必ず大人が付き添いましょう。

水遊びは子どもを解放的な気分させる遊びですが、子どもはわずかな水深でも溺れてしまいます。浅瀬だから、底のビニールプールだからと安心して目を放すと大変危険です。

水遊びをするときは必ず大人が付き添いましょう。ビニールプールは遊んだ後は水を流し、伏せておきましょう。



17. かみそり、包丁、はさみなどの刃物は使用したら必ず片付け、取り出せないように引き出しにはロックをしておく。

まな板の上に置いてあった包丁を取ろうとして足の上に落ちてしまったり、洗面台のかみそりを握ってしまったり、子どもは大人が使っている物に興味を持ち、真似をして自分でも使ってみようとしています。

まだまだ大人が見ていない時に刃物を使用するのは危険です。刃物を使用したらすぐ収納場所に片付ける習慣をつけておきましょう。



ポイント

9-a 誤飲

- 気付いた時点で舌の奥を下の方へ押し、すぐに吐かせるのが原則(ただし、吐かせてはいけない場合もある)

- ①誤飲時の処置は気付いた時点ですぐに吐かせるのが原則です。舌の奥を指、スプーン、アイスクリームを食べる時に使う木のへらなどで下の方に押し吐かせます。なかなか吐かない時(タバコ、防虫剤は除く)や液状異物の場合は水や牛乳を10~15ml/体重(kg)位飲ませてから吐かせます。
- ②ただし、以下の場合は吐かせずに病院へ連れて行きます。(1)意識障害がある、(2)けいれんを起こしている、(3)揮発性の灯油、ガソリン、ベンジン、マニキュア除光液などの誤飲、(4)強酸、強アルカリ(漂白剤やトイレ用洗剤など)の誤飲、(5)血を吐いた、(6)とがったものを誤飲した。
- ③本人の様子が落ち着いていれば、まず中毒110番(日本中毒情報センター)に電話(ダイヤルQ2、約300円/1回)で問い合わせ指示を仰ぐようにされてもよいでしょう。誤飲物の毒性や家庭での処置についてはホームページ(<http://www.j-poison-ic.or.jp>)でも検索できます。
- ④問い合わせや病院受診の時には、お子さんの年齢、体重、誤飲物の正確な名称、誤飲した量を伝え、誤飲したものの一部や容器が残っていればそれを持参するようにしましょう。

中毒110

- つくば中毒110番(有料) 電話 0990-52-9899
- 大阪中毒110番(有料) 電話 0990-50-2499

[大阪、365日24時間対応] [つくば、12/31~1/3以外の 9~17時受付]

なお参考までに以下に、少量の誤飲ではほとんど無害なものリストと誤飲の際の処置の仕方のまとめを以下に示します。

少量の誤飲ではほとんど無害なもの(少量1gまたは1ml未満)

台 所	文 房 具	化 粧 品	そ の 他
食用油 酒 冷蔵庫用脱臭剤 保冷剤 マッチの先端 ろうそく	インク クレヨン・クレパス 絵の具 鉛筆 消しゴム 墨汁・粘土・糊	石けん・おしろい・口紅 クリーム・化粧水・香水 オーデコロン ベビーオイル・乳液 ベビーパウダー 濡れティッシュ	歯磨き・シャンプー ヘアトニック シリカゲル 使い捨てカイロ 線香・蚊取線香・マット 靴墨・花火・体温計の水銀

現場での応急手当のまとめ



国立保健医療科学院運営

子供に安全をプレゼントー 事故防止支援サイト

<http://www.niph.go.jp/soshiki/shogai/jikoboshi/index.html>

<同サイトより>

事故は子どもの健全育成を妨げる最大の要因となっています。特にわが国の子どもの事故による死亡率は先進国の中では高いことが明らかになっています。

このため、厚生労働省の「健やか親子21」では全ての家庭および市町村が事故防止対策を実施すべきとしております。

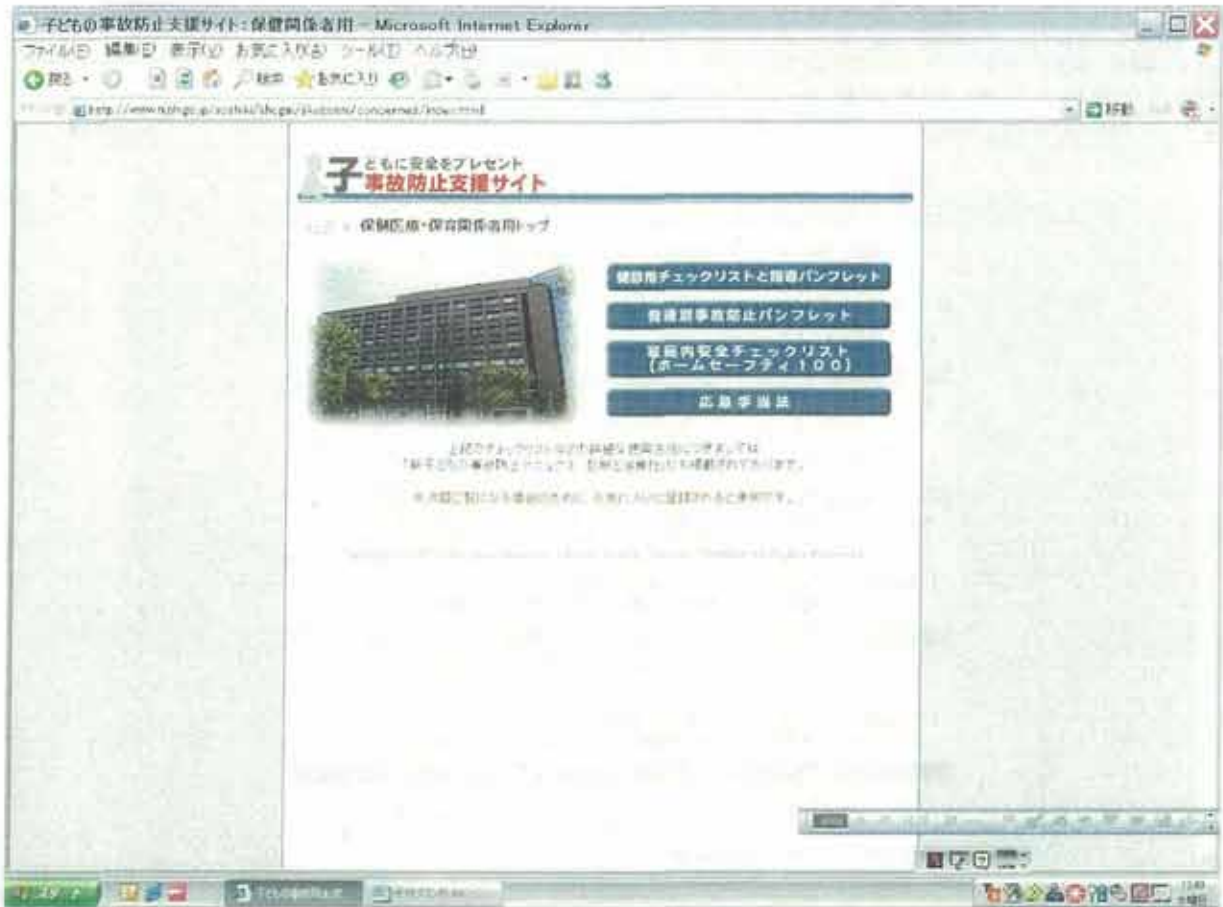
このサイトでは子どもの事故を防ぐための情報と教材の提供をすることにしました。

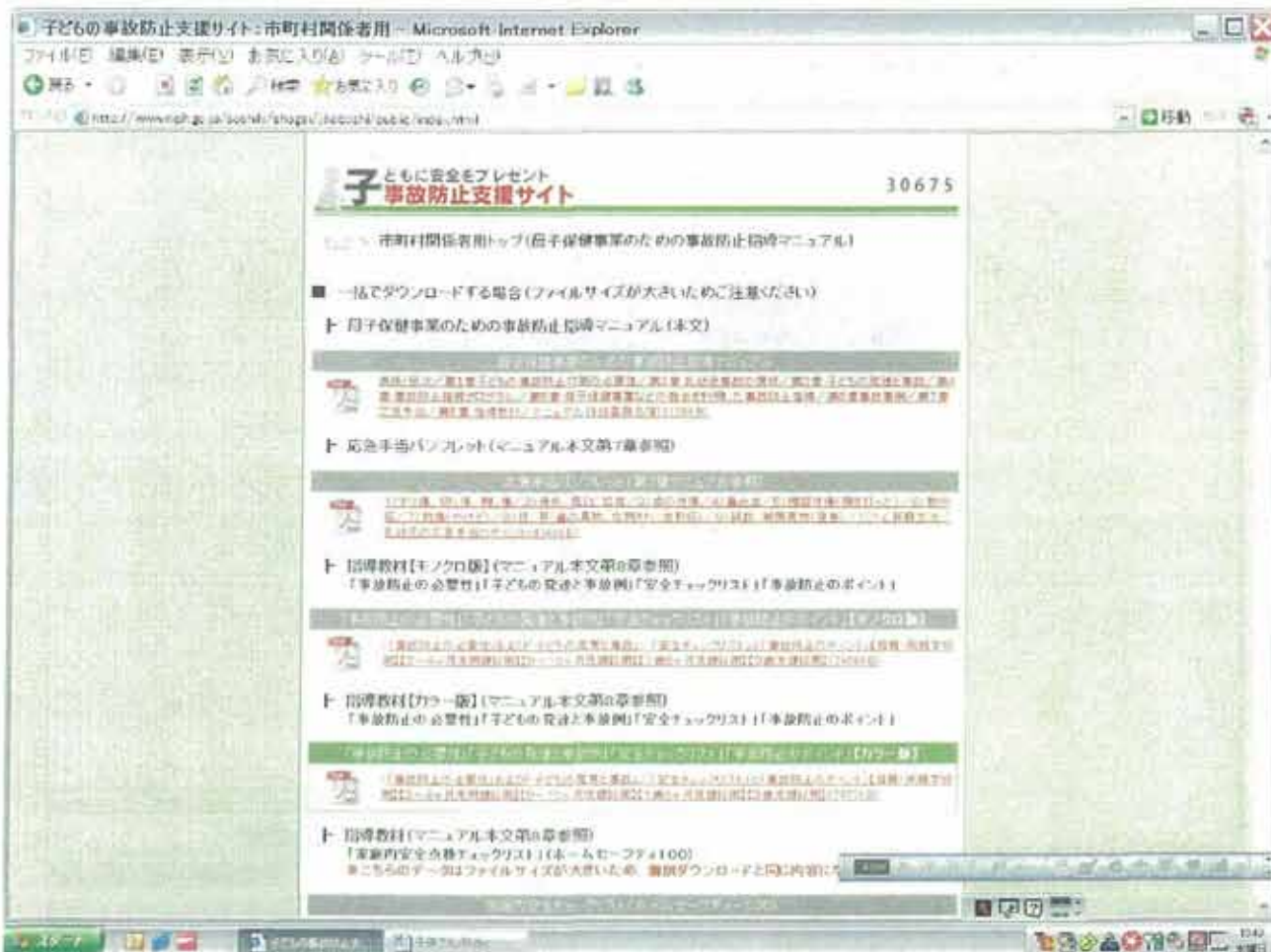
『子ども達に安全をプレゼント』することのお手伝いできれば幸いです。

国立保健医療科学院 生涯保健部長

田中哲郎







(参考)

健やか親子21(抄)

「健やか親子21」は、21世紀の母子保健の取組の方向性と目標や指標を示し、関係機関・団体が一体となって、平成13年より22年までの10年計画で、その達成に取り組む国民運動

<概要>

○ 21世紀の母子保健のビジョンを示すために検討を行ってきた児童家庭局長の委嘱による「健やか親子21検討会」(座長：平山宗宏 母子愛育会日本子ども家庭総合研究所所長)は、その報告書を取りまとめた。

○ 報告書では、これまでの母子保健の取組の成果を踏まえ、残された課題と新たな課題を整理し、21世紀の母子保健の取組の方向性を提示し、2010年までの目標を設定し、関係者、関係機関・団体が一体となって推進する国民運動計画「健やか親子21」を提言した。

○ 今後は、本報告書の内容を広く関係者等に周知するとともに、「健やか親子21推進協議会」を設置し、国民的な運動を展開する。

○ 課題の一つとして、地域保健の中で、「事故の大部分は予防可能で、小児の発達段階に応じた具体的な事故防止方法を、家庭や施設の関係者への情報提供、学習機会の提供等を行う。」ことが掲げられている。

(<http://rhino.yamanashi-med.ac.jp/sukoyaka/index.html> 参照)

「少子化社会対策大綱に基づく重点施策の具体的実施計画について（子ども・子育て応援プラン）」（抄）

平成 16 年 12 月 24 日
少子化社会対策会議決定

<趣旨>

少子化社会対策基本法に基づき、国の基本施策として、「少子化社会対策大綱」（平成 16 年 6 月 4 日閣議決定）を策定し、少子化の流れを変えるための施策を強力に推進することとしているが、本大綱に盛り込まれた施策について、その効果的な推進を図るため、重点施策の具体的実施計画として、この「少子化社会対策大綱に基づく重点施策の具体的実施計画について」を策定する。

本計画では、大綱に盛り込まれた施策のうち、地方公共団体や企業等とともに計画的に取り組む必要があるものについて、平成 21 年度までの 5 年間に講ずる具体的な施策内容と目標を掲げるとともに、施策の実施によって子どもが健康に育つ社会、子どもを産み、育てることに喜びを感じることができる社会への転換がどのように進んでいるのかが分かるよう、概ね 10 年後を展望した、目指すべき社会の姿を掲げ、それに向けて、この 5 年間に施策を重点的に取り組んでいくこととする。

今後、本計画に基づき、夢と希望にあふれる若者が生まれ、家庭を築き、安心と喜びを持って子育てに当たっていくことを社会全体で応援する環境が整ってきたという実感の持てるよう、内容や効果を評価しながら、政府を挙げて取組を強力に進めていく。

4. 子育ての新たな支え合いと連帯

（5）いつでも安心して小児医療、母子保健医療が受けられる体制の整備

②子どもの健やかな成長の促進

家庭内等における子どもの事故防止対策の推進

乳幼児が家庭の浴槽で溺死する事故なども多いことから、家庭内における子どもの事故防止のための取組を推進する。（厚生労働省）

（6）子育てに安心、安全な住まいやまちづくり

②子育てバリアフリーなどの推進

育児にかかる製品の安全性の確保

製品に関する事故情報の収集・調査等により、製品による事故の未然・再発防止及び製品の安全性を図る。（経済産業省）

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/jisedai22/pdf/data.pdf> 参照)